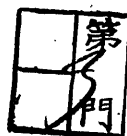


0027

REEL No. 1-0544



参政官
副参政官

文書

會計

人事

通商

政務

大臣
次官

電信課長



雲南省 大正六年二月
七日午前八時三十分

内田大臣

二龍 領事

第一號

南支安撫問題 閣下一月十八日廣東
軍政府政務會議に於て決定しん條
件を通りニヤル日 當地督軍府ニ入
電アリ

甲 先決問題

(一) 外交團より交付スル金額ハ南支ニテ

分用スルコト

(二) 郵便電信ノ検査ヲ廢止スルコト

(三) 福建陝西湖北西部ノ問題ヲ解決
スルコト

1. 軍隊撤退実行期前ハ増兵セザ
ルコト

2. 西支邊防要ヲ廢止スルコト

乙 根本問題

(一) 國會ハ完全自由ノ職務ヲ行使スルコト
(二) 地方制度ヲ確立スルコト

MT

1614 12652

MT

1614 12651

大臣 次官 電信課長

参政官 副参政官

文書 會計 人事 通商 政務

第 門

北方代表徐佛蘇波多、伊ふる依
レハ東京ヨリ来レル代表ハ議事
規則等、付唐紹儀、事方代表ト
協議ヲ遂ケル処、一時ハ双方ノ議合ハ
ス北方代表ハ昨夜、袂ヲ連ネテ引揚
ノ苦テリ、ハ胡漢民章行後等、
移送陸海軍ヨリ多クハ伊

第三十六号

内田外務大臣 有吉總領事

上海、去年八月二日、自右ハ
本府ヨリ、合、七日、自右ハ、
七、八、九、暗

MT 1614 12653

(三) 軍區ヲ区分シ、軍隊ヲ撤退スルコト
(四) 各省各軍、及海軍、軍費、軍械
軍需品ヲ補充スルコト
(五) 善後借款ハ、南北協同シテ、辦理ス
ルコト
(六) 軍政府、榮、命、令、ハ、有效ト認ム
ルコト
(七) 諸元兇ヲ懲罰スルコト

尚各省各軍、特殊條件ハ、各自、代表
提出スルコト

MT 1614 12652-1

仲裁ニテ南側^方モ大ニ譲歩シ同規則
中ニ条總代表ノ^一ノ發言ハ之レヲ
認メ但シ豫備會議ハ各々如何
ナル問題ニモ發言シ得ルコトニ折合
ヒ地桌ノ如キハ北方代表ハ毫モ之レ
ヲ多クス昨夜李國珍汪有齡兩人
朱啓鈴ヲ当地ニ迎フルガト東京ニ
歸リ本夕汪有齡ノ^一朱ノ都合ヲ
査ラシ東瀛スル客ニテ是レヨリ會議
ノ準備ニ取掛カリ多分十二日頃ハ開
会ノコトナルヘキカト四川陝西問題ハ

MT 1614 12654

會議ノ節ニ讓ラルヘク國防軍問題
モ甚ク難問ナルモ成ルベク日本ニ累
ヲ及ボサレ様教シタキ考ヘサリト申
居リタル趣ナリ高孫洪伊モ^一國防軍
問題ニ付宜言者ヲ發シ大ニ反對ノ
氣勢ヲ昂ゲル言ナリトノコトナリ
左支右使廣東總領事^一東京領
事^一電報ナリ

MT 1614 12655

七ノ形方

大正八年二月七日 鑒 發 第二課 西多也

電 報

參謀次長 宛

在

二月四日午後五時三十分發
青島 參謀次長

葛電第三三號

石青陽及ヒ顏德基ハ連名ニテ軍政府ニ左記報ヒテ電
報ヲ致シ之ヲ各方面ニ轉電スハク妥協セリ

青陽等因ヨリ和平ヲ愛スルモ其兵ヲ用ニル所以ニモハ
榆安ヲ端ニシテ七ビナ國隨テセフルヲ恐ルレハナリ故ニ諸公

意見ヲ此處ニ致シ約法回復ヲ以テ主體トシ終ニ昌運

ヲ以テ前提トナシ根本的ニ特局ヲ解決スヘシ道理ニ於テ此ヲ
唱フル能ハルモノアレハ勢力復戦ヲ至リ和平使スルニ

諸公ニ歸スヘシ云々

陸 軍

之ニ對スル軍政府ニ返電、貴電義正シク同義ナリ此方
果シテ克ク誠意ヲ以テ和議ヲ論スルナラハ此ニ趣旨ニ基
キ根本的解決ヲ為スヲ得ヘルト



要目付

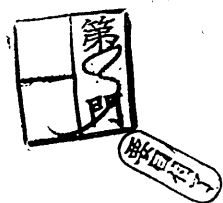
號受01374號

MT

1614 12657

MT

1614 12656



大臣
次官
参政官
副参政官
文書
會計
人事
通商
政務

電信課長



第四一號

本日章行殿ニ面会セル談話要略
如左

和平会議ニ関シ本日南北双方ノ
代表唐紹儀宅ニ会合スル果
體的二議事規則ヲ決定シ今(晚)
会議ニ於ケル散云ハ總代表ニ限リ
別ニ審査会ヲ設ケ右ニハ各代表
極度防山多ク子多印

北(唐) 上海愛人年二夏前八如
以田外務大臣 有吉徳厚

七形如

就レモ登云レハルコト議題ハ南
北代表協議決定スル事等
ヲ(脱)双方ノ意見致シ北方代表
彭壽松右ヲ廣ラシテ南京ニ赴キ朱
啓鈴ニ報告シ明九日頃何分ノ返
電アル筈ニテ多分何才ノ反対モ之
レ無カルベクト尚三日本ニ朱啓
鈴ノ宿舎ヲ定メ其止ニテ同人ノ東
渡リ見ルベク右ヲ候テ始メテ
同会期日ヲ定ムル筈ニ付目下ノ趣

MT 1614 12659

MT 1614 12658

7中

未だ確定ニまう不協可ハ独逸
佐兵部ト決定セリ国防軍問題
ニ就テハ目下ニ就アリ一ハ右ヲ單
独ノ問題トシテ取扱ハントスルモノ
一ハ裁兵問題ト同時ニ議セントスル
モノニシテ決着ヲ議決トスルトモ
トハ南北代表家協議ヲ要スル
事トテ果シテ議決ニ止ルヤ否
ヤハ尚確言シ難ク自今トシテハ
本問題ニ依リ日支ノ親善マデヲモ

MT

1614

12660

傷ヲニ至^テハ切望シ居ル次第
ニテ日軍創設ノ主旨ニハ或程度
迄日敵ナルモ其方法手前ノ誤
レルニ及射セザルヲ悔不即今同
軍ノ如キハ一人ノ手ニ依リ獨断セ
ラルベカラズ且斯ノ如ク急ニ衆
敵セラルベキ性質ノモノニ非ズ
戦ノ必要アルニ於テハ或ニ急ニ
獨断ヲ要シタルベキモ今や軍ハ
危機ノ用ヲ為スニ非ズ將來必

MT

1614

12661



第四

副參政官

參政官

文書

會計

人事

通商

政務

次官

トビ

内田外務大臣

二瓶領事

大臣

九暗

雲南

大正八年二月

十日

午後三・四〇

電信課長

常制

左記ノ如キ雲南關係條件ヲ提出シタリ

往電第三号ニ関シ唐督軍ハ南方代表者ニ對シ
左記ノ如キ雲南關係條件ヲ提出シタリ
甲一、在四川雲南軍ハ少クトモ一個師團一混
成旅團ヲ以テ國軍ヲ編成シ同ジク貴州軍ハ
少クトモ三個混成旅團ヲ以テ國軍ヲ編成ス
ルコト

二、雲南軍ハ四川ノ南北西ノ三方面各縣ニ分

別駐防スルコトヲ要ス

○

MT

1614 12663

ノ用トナルニ在リ可成西家ニ必要ト
ナル精練ノ兵ヲ作ルヲ宜トスベク
然ルニ最悪兵タル倪嗣冲ノ輸送
兵者ヲ以テ段一人之ヲ養成セン
ト不足ノ兵人ノ反對セザルヲ信ガ
ル所ナリトセリ

北京府東ハ精練ニ南系ハ増号ノ兵
卸退セリ

MT

1614 12662

駐シ貴州軍ハ四川ノ東部ニ駐在スルコト
三。右一切ノ軍費ハ中央ヨリ支出スルコト
四。軍區未定前ノ各軍ハ夫々雲貴兩督軍ノ^{節制}指揮ニ歸スルコト

乙一。在廣東雲南軍ハ二個師團ヲ以テ國軍ヲ編成スルコト

二。右軍費ハ中央ヨリ支出スルコト^{節制}
三。軍區未定前ハ暫ラク雲南督軍ノ^{節制}指揮ニ歸スルコト

丙。護國護法兩省ハ中央ヨリ確定ニ支出

MT 1614 12664

スルコト

丁 雲貴兩省ハ從來中央ヨリ補助金ヲ受ケタル省ナレバ中央ハ確定ナル金額ヲ指定シテ毎年補助スルコト

北京廣東へ轉費セリ

MT 1614 12665

要目録

01465 號

秘

西南政局

南支特報第三號

大正八年貳月拾日發
參謀第一五號
大正八年二月一日

臺灣總督府陸軍參謀部

臺灣總督府
第一號

MT 1614 12666

西南政局 其三 (廣東報告)

目次

一、南方議和代表選派経緯

二、軍事委員ノ任命

三、軍政府ニ於テ南方議和代表送別
會席上ニ於テ發表セシ主要人士ノ意見

MT

1614 12667

西南政局 其三

南方議和代表選派ノ経緯
南方議和代表選定ノ状況ニ就テハ其ノ都度
電報ヲ以テ報告セシ所ナルモ其ノ決定ヲ見ルニ
至レル経過ニ就キ左ニ其ノ概況ヲ報告ス
初メ徐世昌ヨリ軍政府政務總裁ニ對シ議和
ヲ提唱スルヤ首席總裁タル岑春煊ハ軍費及
ヒ武器欠乏ノ關係上最早ヤ戰鬪ヲ繼續スル不利
ヲ覺知シ殊ニ一般國民ノ意嚮ハ平和ヲ渴望シアルヲ
省取之ニ應スルノ意ヲ決シ在上海張耀曾ヲ通シテ
々交渉ヲ進ムツアリシカ五國ノ勸告ヲ受クルニ至リ之
ヲ好機トシテ一層其ノ歩ヲ進メ遂ニ議和代表選定

MT

1614 12668

問題マテニ漕付クニ至リタルニ端ナクモ陝閩問題ハ為
茲ニ頓挫ヲ惹起セトスルノ形勢ニテルト同時ニ方
代表選定問題ニ關シ岑春煊側ト國會側ト其
意見ヲ異ニシ岑側ハ各省本位下ニ軍政府ヨリ
ニ名西廣雲貴四川湖南陝西及海軍ヨリ各々
一名ノ代表ヲ選出セトシ夫レ各省ニ交渉ヲ開
始シ又國會ニ對シテハ總代表ノ國會同意ヲ
得ルハ其他ハ國會ノ同意ヲ得ルヲ要セト主張シタ
ル國會側ニハ今次和議ノ根本主義ハ決シテ各省
本位如キ部分ノモノニアラスシテ支那國策ノ根本
方針ヲ確定スル最モ重大ナル時機ナルヲ須ラシ人物
本位タルヘシ且ツ全代表ハ國會ノ同意ヲ要スト主張

MT

1614 12669

シ為ニ容易ニ決スル所アラリシカ軍政府側ハ國會側ト談話會ヲ開キ陝西ノ代表ヲ取消シ國會ヨリ一名ノ代表ヲ出シ以テ圓滿ナル解決ヲ告グントシ益友社ニ属スル副議長褚補成ヲ指定シタルニ國會側ハ敢テ代表ノ選派ヲ希望スルニラスト言明シテ之ヲ拒絶シタルニナラス益友社ノモノハ自派ノヨリ代表ヲ出スハ益友社ノ國會ニ對シ和議ノ責任ヲ負ハサルヘカラサルニ至ルヒト見地ヨリ之ヲ辞退シト同時ニ方陝西督軍千右任(未タ承諾サルモ軍政府ノ任命シタルモ)ヨリ陝西ヨリ是非共代表ヲ出サルヘカラストノ意見ヲ具申シ来リ且ツ軍政府殊ニ岑春煊ト寧北方ハ既ニ代表ヲ選派シタルニ南方ハ之ニ對シ

代表ヲ選定セトアリテハ南方ノ和議ニ對スル誠意ニ關シ北方殊ニ列國ノ誤解ヲ招クヘキヲ恐レ且ツ各省モ夫々代表ヲ決定シタルナレバ此際断然最初ノ腹案通り實行スルニ決シ九日附テ次ノ如ク發表シ北京政府ニ通告セリ

總代表

唐紹儀

章士釗(軍政府) 軍政府秘書廳長
 胡漢民(軍政府) 日本留學生トス
 郭森椿(廣東) 廣東省議會議員及
 廣東督軍署參謀長
 日本留學生トス

MT 1614 12671

MT 1614 12670

曾 彦(廣西) 廣西參議院議員元
日本留學生トス
縲嘉壽雲(雲南) 雲南人ミテ前蒙自道尹

雲南代表ハ最初唐繼虞ナリシモ
李根源ノ意見ニヨリ上海ニ於ケル
阿片問題ノ關係上之ヲ取止メ李
曰埃ヲ推舉シ之ニ決定シル後又
雲南ヲ縲ヲ推舉シ来リタル為メ
縲ニ變更セラレタリ

王伯羣(貴州) 貴州人ミテ元貴州道尹
彭允彝(湖南) 湖南人ミテ衆議院議員
劉光烈(四川) 四川人ミテ前四川省政務
李述膺(陝西) 陝西人ミテ衆議院議員
日本留學生トス

饒鳴鑾(海軍) 福建人ミテ同安艦長兼海
軍部參謀長ナリ
十名ニテ國會側ハ陝閩問題解決セサル以上
代表ヲ派遣スルヲ得スト決議シアリシモ軍政府ハ錢
能訓及李純ヨリ陝閩鄂西問題ハ双方適當ナク
線ヨリ暫駐區域ヲ劃定シ各現在地ヲ防止スヘシトノ
提議アリタルハ該問題モ早晩解決スルモノト認メ且ツ唐
紹儀及陸榮廷ヨリ速カニ代表ヲ派遣スヘキ督促ヲ受
ケタル為メ國會ニ對シテ此ノ意味ノ通告ヲ發シ兎ニ
角代表ヲ上海ヲ派遣シ會議ノ開催ハ會議地吳
及陝閩西問題ノ解決後ニ行フトトシ各代表ハ本月
中ニ全部上海ニ集合スルトナリ其一部ハ既ニ出發
ノ途ニ就ケリ

MT 1614 12673

MT 1614 12672

二軍事委員ノ任命

軍政府トシテ議和會議ニ提出スヘキ軍事上ノ諸問題ヲ協定ス目的ヲ以テ軍事委員會ヲ組織シ一月六日其ノ委員ヲ次ノ如ク任命セリ

- 蔣尊簋(浙江人)陸軍上將參謀部次長(日本留學生)
- 鈕永建(江蘇人)陸軍中將廣東兵工廠總辦(在任)
- 李書城(湖北人)陸軍中將湖北靖國軍總司令(在任)
- 林虎(廣西人)陸軍中將護國軍第二軍司令官(在任)
- 馬濟(廣西人)陸軍中將護國軍第一軍司令官(在任)
- 劉祖武(雲南人)陸軍中將雲南陸軍師長(在任)
- 陳強(湖南人)陸軍中將湖南靖國軍總司令(在任)
- 繆嘉壽(雲南人)雲南護國軍第一軍司令官(在任)

魏邦平(廣東人)陸軍少將中將銜(廣東自衛軍總司令)

金永炎(湖北人)陸軍中將前總統府軍務顧問(現軍務顧問)

魏子浩(福建人)海軍中佐海軍部軍務司長
耿毅(直隸人)陸軍少將現參謀部參贊
張孝準(湖南人)

呂公望(浙江人)陸軍中將上將銜(前浙江督軍)
十四名トス而シテ該委員ノ尤モ研究ヲ要スヘキ問題ハ軍區ノ劃定及軍隊裁撤法ニシテ廣東ニ於テ略ホ之力協定ヲ告ケ然ル後會議地ニ移ル筈ナリ

MT

1614 12675

MT

1614 12674

三軍政府ニ於ケル南方議和代表送別
會席上ニ於テ發表セシ主要人士ノ意見
十四日軍政府カ南方議和代表ヲ招待シ送別會ヲ
兼テ軍事委員唐繼虞各省代表及國會副議長
長列席ニ上議和ニ關スル意見ヲ交換セリ尤ニ其ノ
主ナルモノヲ録シ御参考ニ供ス

一伍廷芳

此日岑春煊ハ病氣ノ故ヲ以テ欠席シ伍廷芳其
首席トナリ次ノ如キ意見ヲ發表セリ
各代表ニ委託シタキハ護法及永久和平ノ為ノ努
力セシ度キハ勿論出ホ尤記三件ニ關シ盡力セラ
レタシ

五

北京政府カ南方ノ電報ヲ抑留セサルコト
即チ錢能訓ノ伍ニ對スル來電及伍ノ在上海伍
朝樞ニ對スル電報上海電報局ニ於テ抑留
セラレタル事實アリ

北京政府ヲシテ英國公使ヲ通シテ香港政廳ニ
差押ヘル南方カ米國ニ於テ購買セシ兵器材料
ヲ速ニ引渡ス様香港政廳ニ交渉セシムルコト
北京政府ヲシテ香港ニ於テ扣留セル廣東巡艦ノ
開放ヲ交渉セシムルコト

是ナリ

二徐謙ノ言

和議條件ハ軍政府ヨリ國會ニ提出シテ其同意

MT

1614

12677

MT

1614

12676

ヲ得ルト及孫中山主張スル所ノ國會ヲシテ自
由ニ其職權ヲ行使セシムルコトヲ切望ス云々

三、岑春煊ノ言(金永炎代リテ述フ)

岑春煊ハ議和會議ニ提出セントスル根本的意
見トシテ次ノ六ヶ條ヲ開陳セリ

一、國會ヲ恢復スルコト

二、地方分權制度ノ劃定(憲法未ダ規定セシメザル間ハ内
務部制定地方制度ヲ適用スルコト)

三、軍區ノ劃定及軍隊ノ裁撤法(軍事委員會ヲシテ立案
セシメ議會ニ提出シテ之ヲ議決ス)

四、護法各省ノ軍費及軍實ノ補充(詳細ハ各省ヲシテ
調査セシム)

五、善後借款ハ南北政府共同シテ之ヲ辦理ス
(其ノ額數分配及監督法ハ
會議ニ提出シテ之ヲ協定ス)

六、軍政府發ル所ノ命令ハ全部有効ト認メ
テ

シムルコト

是ナリ

四、唐繼虞ノ言

今次議和ノ止ヲ得サルニ至リ唐聯軍司令唐
繼堯ヲ云フハ護法ノ目的ニ背カサルコトヲ希望シ

テ其他財政軍事上重要事項ニ關シテハ各代
表慎重ノ注意ヲ拂ヒ遺算方ヲ示トヲ希望ス

ト單簡ニ述ヘタリ

五、趙藩ノ言(雲南省代表ニテ交通部長アリ)

一、須ラシ對當的議和ノ形式ヲ採リ決シテ北方ヲシ

テ命令的ニ辦理セシムヘカラス

二、法律問題ニ重キ置キ事實問題ニ眩惑スヘカ

MT

1614 12679

MT

1614 12678

ラス

護法團體一致行動ヲトリ局部的利益ノ為
單獨的和ヲ議スヘカラス

六、諸補成ノ言(衆議院副議長)

今日參衆兩院議長事故アリテ欠席ス余ハ今
日單ニ茶會ニトミテ知リ各代表及軍事委員
ノ送別會ナルヲ知ラサルヲ以テ國會ヲ代表シテ意
見ヲ開陳スルヲ得ス議和條件ニ關シハ國會ト
シテ尚ホ研究ヲ要スヘキトアルヲ以テ茲ニ之ニ關ス
ル意見ヲ述ルヲ得ス

七、張伯烈ノ言(湖北代表)

湖北省トシテ各代表及軍事委員ニ對シ次ノ

七

件ニ注意ヲ拂ハレシトヲ希望ス

鄂西地方現ニ五師以上ノ軍隊存在ス宜シ法ヲ
設ケテ收束セラレタシ

又黎天才唐克明兩司令曾テ軍政府ニ報
告スルニ湖北原ト第九師以外ニ黎元洪督
鄂時三師兩旅ノ成案アルヲ以テス若シ將來
裁兵主義ヲ採用ス場合ニ於テモ此ノ軍隊
ノミハ除外セラレタシ

又王占元湖北ニ督軍トナリテヨリ實業教育共
ニ摧殘殆ト盡シ宜シ救済法ヲ講セラレタシ
又今次ノ軍興ニ於テ荆襄隕宜施及安陸府
地方ノ人民及商務ノ損害ヲ蒙ルニ二十萬元

MT

1614

12681

MT

1614

12680

ニ近カラントス其ノ苦痛湖南ニ劣ラス耳シノ撫
恤賠償ノ法ヲ講セラレタシ

八、趙世鈺ノ言（陝西省參議院議員）

陝西進兵問題ハ獨リ陝西ノミナス全國ノ利害
安危ニ繫ル所ナリ今次北方和議ノ進行中ニ
於テ兵ヲ進メ陝西ノ危且タニアリ此ノ際聞陝
鄂西問題解決セラル間ハ會議ヲ開始セザランユ
トヲ希望ニ堪エス

九、胡漢民ノ言

議和條件ハ國會ノ同意ヲ得ヘシト意見ニハ
至極賛成ナリ然ルニ今日未タ確呼タル條件
アルヲ聞カス此ノ際重要ニシテ絶對讓歩シ得

サル諸件ニ對シ速カニ決議ヲナシ且ツ分代表ト
總代表トノ權限ニ關シ速ニ規定セラレシメトヲ
希望ス

大要以上ノ如ク岑春煊ノ言ヲ除ク外概テ抽
象的ニシテ其ノ要ヲ得サルカ如キモ又以テ議和ニ
對スル南方主要人士ノ意見ノ概要ヲ窺知シ得
ルモノト認メ特ニ茲ニ報告ス

MT

1614 12683

MT

1614 12682

發送先
參謀次長
海軍令部次長
關東都府陸軍參謀長
坂西少將
青島守備軍參謀長
上海駐在武官
陸軍總督府海軍參謀長
同外事課長

陸軍次官
外務次官
北京公使館武官
支那駐屯軍司令官
支那派遣隊司令官
支那總督府民政長官
同警視總長

電信課長

大臣
次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

三時
九時

内田外務大臣

清野事務代理

第二三號

齊鎮守使が多笑大佐。對し唐紹儀。近來
勢力、高マシハ。満心。動モス。南方側多數
意見ヲ顧ミ。自己ノ意見ヲ固執ス。カ
故。南方代表モ胡漢民ヲ除ク。外。皆心
中惡感情ヲ抱キ。居ハ次第。ハ南方督軍
等。所謂實力派間。唐ガ依然惡態度

南京發
大正二年二月
十月後十時十分
本有看
空同後一時五分

MT

1614 12684

MT

1614 12685

ヲ改メシテ彼等ノ意志ヲ代表セラル
孫代表ヲ取更ニトノ意ヲ以テ内密協議中
ナリト内証セシ趣ナリ又最近廣東ヨリ來ル
旧國會議員穩吉森ガ小官ニ對シ同人等
ハ南方代表中ノ章士釗鄒橋森彭允彝三
名ハ政學會ニ屬シ其護法ニ生精神ヲ知
ル民黨ノ假面被フリト評シテ事トスルニ付
其言ハ監視ノ爲來ルニ事ナリト云
昔煊ハ元ト退國璋ノ機密金ヲス
廣東ニ來リ有耶無耶間ニ政務院裁
此位ヲ

MT

1614 12686

占メタルモノナレバ元ヨリ油断ナラズ者ナリト慷慨
的ノ口調ヲ以テ語レリ
右齊ノ唐紹儀非難ニ往電第二ノ彈所載
李純ノ唐ニ對スル惡感情ニ基ク
思考セラルル節ナキニ非ルモ要スル
南方派中
ニ反目内証ノ暗流アリテ會務ノ成行如何
ニ依リテ或ハ若干ノ波瀾ヲ惹起スヤモ計
難シト揣摩セラル
北京ノ電報ナリ
上海廣東ノ暗号ニ停郵通ナリ

MT

1614 12687

第1門

在雲南
二瓶領事宛

内田大臣

第一号
本月七。元貴電（唐督軍提出條件）
上海（轉電）了了

電送第一二〇五
大正八年二月二十日

外務省

MT

1614 12688

支那の海

電信課長

秘

政務局長

第一課

雲南廳 大正八年二月 十日 三・四・五
本省着

内田外務大臣

二瓶領事

在上海

有吉総領事

第 號

在雲南領事
未電在1區

5

往電第三号ニ関シ唐督軍ハ南方代表者ニ對シ
左記ノ如キ雲南關係條件ヲ提出シタリ

甲一、在四川雲南軍ハ少クトモ一個師團一混
成旅團ヲ以テ國軍ヲ編成シ同ジク貴州軍ハ
少クトモ三個混成旅團ヲ以テ國軍ヲ編成ス
ルコト

二、雲南軍ハ四川ノ南北西ノ三方面各縣ニ分

駐シ貴州軍ハ四川ノ東部ニ駐在スルコト

三、右一切ノ軍費ハ中央ヨリ支出スルコト

四、軍區未定前ノ各軍ハ夫々雲貴兩督軍ノ振制
指揮ニ歸スルコト

乙一、在廣東雲南軍ハ二個師團ヲ以テ國軍ヲ編
成スルコト

二、右軍費ハ中央ヨリ支出スルコト

三、軍區未定前ハ暫ラク雲南督軍ノ振政指揮

ニ歸スルコト

丙、兩國護法兩派金額ハ中央ヨリ確實ニ支出

MT

1614 12690

MT

1614 12689

スルコト

丁 雲貴兩省ハ從來中央ヨリ補助金ヲ受ケ
タル省ナレバ中央ハ確實ナル金額ヲ指定シ
テ毎年補助スルコト
北京廣東へ轉賣セリ

MT 1614 12691

大正八年二月十二日 接受

駐露参事館 第二課

参事

同文

電報

二月九日

二月八日午後二時三十分着

宛

在

上海 松井 大佐

参謀總長

特電第一

01514 號

要目付

北方代表ハ四日以來南京上海間ヲ往復シ南方
代表トノ間ニ和平會議細則ヲ協定中ナリシカ
七日午ノミナリ制定シ五六日中ニ上海ニテ正式ニ會
議ヲ開クコトニ決セリ

陸

軍

MT

1614 12692

700

支那の現状

大正八年二月十二日接奉

陸軍部

第二課

(陸内文)

二月十日

電報

二月九日午後九時十五分着

総長

宛

在

天津軍司令官

天電ニ一

總統府員某、談ニ依リ国防軍撤廃ハ南北
平和會議ニ付テハ提議セラルヘク本問題ニ就テ
南方派ハ日本カ北方派援助ノ意味ヲ含ムカ如ク
曲解シテ此ノ際日本公使リ支那政府ニ對シ国防
軍ヲ南方壓迫若クハ個人ノ政争ニ使用セサル
言質ヲ求メタルハ機宜ノ処置ナル南方ハ段祺
瑞個人ニ惡感情ヲ有スルヲ以テ政府ニテ適當ノ方
ヲ採サレハ其ノ主張ヲ緩和スルコト難カルヘシ軍事
當局者中ニハ督軍廢止ト共ニ全國ヲ七、八軍區
ニ分ケ各軍區ニ軍事長官ヲ置キ中央ニ元帥
府、軍事委員會院ヲ設ケテ表裏アル軍人ヲ軍事
長官トシ其ノ他督軍ヲ軍事委員會官中央
部辦、總元帥ノ如キモノヲ元帥トシテ解決
スルヲ得策ナリトノ意見ヲ有スト

(各如前)

外 4

第門

秘 01504 號

MT 1614 12694

MT 1614 12693

すうのり

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

二〇七

南支那大正二年二月十二日
本府着

内閣外務大臣 清野事務代理

第二五号

二月十二日王克敏ノ紹介ニ依リ朱啓鈴ヲ訪問
ス今人談話要領ヲ述

(一)會議地矣ハ素ヨリハ問題ナレバ南方側ノ主
張ヲ納メ上海ニ決定シテモ未ダ全地ニ於テ
自分等一行約百名(家族ト其後者ヲ除ク)ノ
宿舎ニ充ツ可キ家屋(散在スレバ之ヲキ
極限限ルハ子々何スミ)

非ルモ不便抄カラザレバ相去ル遠カラザルノ
處ニ宿ヲ定ムルヲ要ス(見当ラザル為今尚
發期日ヲ決定シ得ズレテ閉口シ居レリ。(二)代
表及事務員ヲ收容シ得ル家屋見當リ次第自
分ハ陪同セシ家族ヲ当地ニ残シテモ直ニ出發
シ到着ノ翌日ヨリモ會議ヲ開キ度ヲ考ナルガ
到底明白ハ出發大ケ敷カル可シ。(三)會議規則
九條(文書ノ取扱等迄モ含ム)ハ此ニ決定セ
ルガ其公表ト否トハ未協定ニ付遺憾ナガラ
示シ難シ。(四)決定セルモノハ右規則ノミニシ

MT 1614 12696

MT 1614 12695

テ議題其モノニ付テモ未ダ何等ノ打合せナシ
然レバ其解決案ニ於テヲヤ、(五)予ハ會議ニ於
テハ出来得ル限り過去ノ事實ノ論議ヲ止メ主
トシテ將來ノ便法ヲ公平ニ協議シ度ヲ考ナル
カ双方ノ各代表モ内外望ヲ擔ヒ居ルコトヲ
自覺シ良心ニ照シテ討議ス可キニ付議ノ纏ラ
サルコトハアラザル可ク而シテ議決事項ハ予
ハ國民ト共ニ萬難ヲ排シテ其實行ニ務ムル考
ナリ、

北京ニ電報シ、上海ハ暗号ノ儘郵送セリ、

MT

1614

12697

時北の方

大正八年二月十三日接署
駐務高第課
中

二月十二日

二月十日午後四時二十分
上野二合

電報

參謀總長宛 在 松井大佐

多賀電 奇鎮守使

ハ談ニ依テ正式和平ヲ開ク以前ニ於テ南北代表者ハ上海南京間ニ

於テ豫メ下協議ヲナレ圓滿ニ意思ヲ疏通シタル後正式會議ヲ

開キ議決スルコトナルベク目下南北代表間ニ豫備會議ヲ進捗

セシメツツアリ、從テ期日ハ未定ナルモ遠カラサルヘク地点ハ多分

上海ナルヘキモ未タ確定セシニアラス、又唐紹儀ハ南方側多數

意見ヲ代表セス專ラ自己ノ意見ヲ固執スルカ故ニ南方代

表セハモ胡漢民ヲ除ク外全部之ニ反對シ居リ從テ西南

各督軍等ノ意見ヲ代表セサルハ總代表ヲ改派スルコト

陸軍

内協議中ナリト語レリ

若レ之レク事實ナレハ今後唐ノ態度如何ニ依リテハ或

波瀾ヲ生スルマモ計リ難シ當地ニテハ一般ニ唐ノ言論

突飛ナル破壊意見トシ其人格ヲ卑シ北方派對唐

紹儀ノ惡感情ハ依然変ラサルハ認メラル

MT

1614 12699

MT

1614 12698

南京來電
廿二七号

直ぐ其方より文武官等、通達し新聞記
事、輕信し、戒め置き、之が故に、既に當
方、官吏の誤解を招き、居るモノナリ、排日
ノ氣勢ハ不日消滅スベシ、
ニ、双方代表が直接に、萬事ノ交渉に、又會
議ハ上海に開くコトナリ、居るモノ予ハ初
メテ重荷ヲ卸シ、感ず、然るに斯ク決
定セシハ會議速成ノ希望に因しんモノナ
リ、爰上海に於て、双方代表、住宅其他ノ
關係上、今尚ホ用舎ノ運搬に、至らざるノミナ

MT

1614 12701

副參政官

參政官

文書

會計

人事

通商

政務

次官

大臣

電信課長

内田外務大臣 淺野軍務代領

南京來電 大正八年二月十三日午後九時
本署著 十三日午後三時五

二月十三日李純ハ過版、怪我全癒セズ骨
髓、痛ミ、去ラズ往訪セシ小官ヲ居室
ニ案内し起居若干苦シ氣見ヘンモノ例
ノ如ク快調ニ大要左ノ如キ時句漢ヲ為シ
一、外交自由制限ノ干涉云々ハ無根流言
ナルコトニ付、十一日貴信ニ接セン以前、於テ
大總統ヨリ九月及十月、兩回來電アリシニ付
秘に陸軍部ヨリ云々アリ又ミ

MT

1614 12700

ラズ朱啓鈴ノ如キハ依然居リ當興定
メ會議ノ都度出滬スヘシト云フ有様ナ
レキ却テ聞令、延引ヲ来タレ聞令後ノ
議事ノ進行モ自然ニ（應ルヲ免カザン）牙
痛ヲ来セル次第ニ又上海ハ從來屢々暗
殺事件アリシ土地柄ナリ付何等不祥事
ノ發生ヲキヤラモ懸念セラレ南方實力派
間ニ唐紹儀排斥ノ密議アリト事ハ予ハ
其確報ニ接シ居ラザンカ南方實力派ハ
北方武新派ノ閉息ニ類スル現状ニア

MT 1614 12702

ルモ文治派ノ頭目タシ唐紹儀代表トナ
リ而カモ本會議ニ於テハ彼等が派首セ
ル他ノ代表ニ若言權ナシトスルカ如キハ
決シテ其喜ムベキニアラザルニ鑑ミ必スシモ其事
無シトハ否ニ雖モ夜長クシテ夢多シ短期
間ナラバ會議ノ前途ハ俄ニ樂觀ヲ許サハ
ベシ（自今ノ不明）軒旋ヲ作ラテ會議ヲ
上海ニ回キ而シテ滞ラザル進行ニ得ンヤトノ
語氣勢カラス（不明）看交セラレタリ）會議
ニハ那那ノ名称ヲモ附セザルコト、ナシリ

MT 1614 12703

在支公使(電報)上海(帰郷儘郵送)

MT 1614 12704

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

書

參政官

副參政官

暗

上海大正八年二月十四日午後四時
本署着金 大正八年

内田外務大臣

有吉總領事

第四八号

徐佛蘇カ波多ニ語ル所ニ依レ目下當地
滞在中ノ北方委員ハ徐ト劉恩格ノ二名ニシ
テ右兩人モ兩三日中一旦南京ニ引揚ケ十九
日カ二十日頃朱啓鈴等ト共ニ一同来滬シ
独逸俱樂部及独逸領事館ト分宿スル告
ナリトノコトニテ彼レ和平會議ノ難關ハ陝西
問題日支軍事協定及軍需供給問題並國
務院院議ハ多クノ事アリ又々

MT 1614 12705

會處分問題ノ三點ニ在リトシ其内ニテ陝
西ノコトハ北京大々ニテ如何様ニモ處置シ得
ル次第ナルモ同地方ニ對スル政府ノ態度ハ甚
ク曖昧ニテ或ハ軍閥派ニ制セラレ今ノ内ニ
同地帯ヲ征服シ終ラントスル下ニモアルヤニ
モ疑ハレ前途甚ク憂慮ニ絶ヘストシ軍事
協定ニ付テハ若シ當時ノ漢字新聞等ニ
非公式ニ發表セラレタルモノ大々ノ事ナレハ今
更之レヲ公表スルモ何等ノ害ナキノミナラス
寧ロ一般ノ疑惑ヲ一掃スルニ便ナルヘク固

MT

1614 12706

防軍ニ付テハ自分等ハ之レヲ陸軍部ニ隸屬
セシメ段祺瑞等ヲ其指揮ノ下ニ置クコトトセ
ハ之レヲ存置シ置キテ差支ナシトノ意見
ナルモ唐紹儀等ハ飽迄全廢ヲ主張シ容
易ニ一致ヲ得難キ慮アリ國會ニ付テハ北
方ハ南北共同時ニ廢止スル積ナルモ南方
ハ護法ヲ楯ニ南方國會ヲ正當ノモノト主張
シ是亦解決至難ニ付時トシテハ國防軍
廢止ヲ交換問題トシテ南方國會ヲ處置
スル説モ生スヘキカト觀測シ尙同人ハ南

MT

1614 12707

方側ニ在リテハ孫洪伊及其周囲ニ在ル民
友社一派ノ過激派ハ北方ニ於ケル段祺瑞徐
樹錚等國民多數ノ反對ノ標的タル軍閥
ノ一派ト同シク同時ニ一掃スルミアラサレハ
和平ハ困難ナルヘク而カモ斯ノ如キハ到底
急ニ行ハレ能ハサルニ見テ會議ノ前途寧
ロ悲觀セサルヲ得スト爲シ居タル趣ナリ
將又孫洪伊ハ最近大ニ唐紹儀ニ飽足ラ
サルモノ、如ク今次ノ會議ハ單ニ唐カ將來
ノ政治上ノ立場ヲ得ンカ爲メノ芝居ニ過キス

MT 1614 12708

トレ到底右ニ重キヲ措ク能ハスト公言シ
居レル趣ナリ
北京、廣東ハ電報シ南京ハ暗号ノ伝郵送セリ

MT 1614 12709

大正八年二月十四日接

警務部 第一課

兵外第第八九號

大正八年二月八日

兵庫縣知事清野長太郎

視受01642號

内務大臣 床次竹二郎殿
外務大臣子爵内田康哉殿

第3

支那平和期成會組織之件
支那北京政府前財政總長熊希齡ハ支那
ノ統一ヲ期スル目的ヲ以テ北京ニ平和期成
會本部ヲ設置シ天津漢口上海等ニ
支部ヲ設ケ南北ノ有志ト意思ノ
疏通ヲ因リツ、アル趣ナルカ客月上旬

当地中華商務總會々長王敏祥ニ
宛テ平和促進ニ関スル意見ヲ求メ且ツ
委員ノ派遣ヲ要望シ来リタルヲ以テ王
ハ當地在留支那人中ノ有力者鄭祝三
楊壽彭等ト相談シタルカ支那南北
ノ統一ハ近キ將來ニ實現スルキ状況ニ在
リ今更當地商務總會トシテ意見書
ヲ送付スルノ必要ナリ又委員派遣ニ其ノ
要ヲ認メサルノミナラス經費等ノ都合モ
リ當々本件ニ関シテハ會員一同ニ協
議ヲナサス其ノ儘トナレ居レ模倣ニ有之
右御参考迄ニ及報告候也

MT 1614 12711

MT 1614 12710

四

電送第一三〇三號 大正八年二月十五

在支

小幡公使

内田外務大臣

第二一〇號

二月十四日上海貴新聞電報、反其端ハ
徐樹錚ノ建議ヨリ國防軍及西方邊
防ヲ備處シテ廢止シ近畿陸軍專司
ヲ練處ト改メ徐樹錚モ之ニ同意シ朱
啓鈞シテ各方面ニ付ヘシメノタリト
甲斐果シテ右稱ノ事、實アリヤ否ハ調、
上迄電アリタシ免考、方上海、轉電シ
南京、郵報セシメラシタシ

外務省

MT

1614 12712

ちんめい

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

晴

南京、大谷、
本省、
十七日、
十七日、
十七日、

内田外務大臣

清野事務代理

第三。號

朱啓鈞及其他、當地に在りし北方代表

金部、二月十六日午後六時特別列車

ニテ上海に嚮へリ

北京上海、轉電セリ

9 MT 1614 12713

710

解回二

秘受01704號

秘

大正八年二月十七日接獲

警務部

第一課

台參謀第二四號

大正八年二月七日

臺灣總督府陸軍參謀部

南支情報第一五號

今議會議決和議關之電文

1614

MT

1614 12714

ニ貴陽ニ於ケル黔議會カ和議ハ須ラク
法理ニ依リテ事實ヲ解決セサルヘ
カラサル旨ヲ主張シタル電文

廣州軍政府各總裁及ヒ參眾兩院ニ托シテ分
送シ各省督軍、省長、省議會、韶州、李總
司令、漳州、陳總司令、柳州、程總司令、巫
山、王總司令、黃崗衛軍、呂總司令等諸
氏、清鑒ニ供ス。諸君本會ハ向キニ南北兩軍
ノ鬭ヲ構ヘテヨリ忽チニシテ已ニ三年有餘ナラント
スルヲ慨シ且ツ我カ民衆ノ千萬困難ナル状態
ニアルヲ哀ホモノナリ、今ヤ歐州戦争ハ將ニ終リ

ヲ告ケントシテ外交肝要ナルノ秋ニ際シ苟モ我
カ内政今日ノ如クニシテ長ク此ノ紛糾ヲ續ケ居
ランカ國家ノ前途ハ如何ニ成リ行クヘキカ蓋シ
計リ知ルヘカラス本會ハ熟々天下ノ大勢ヲ察
シ急ニ憂懼ヲ抱キ屢々電報ヲ以テ和議ヲ主
張スル旨ヲ述ヘタリ、其ノ和平ト統一トヲ希望シ居
ル心ハ已ニ天下萬衆ノ認ムル所トス獨リ段氏酷
惡武カラテ西南各地ヲ征服シ個人ノ權利トシテ
之ヲ私セント欲シテ國家無窮ノ禍ヲ重ネトス
今ヤ南北ノ將士等ハ皆戦争ニ厭ク心アリ既ニ長
江一帯ノ三省ハ再三和議ヲ唱ヘ天津上海各地在野
ノ鉅公紳士等モ亦和平期成促進協會ヲ設立各

MT

1614 12716

MT

1614 12715

會ハ合セテ一致進行シ之レカ呼號同情シテ當局ノ反省ヲ促セリ本會亦各會ヨリ來電ニ接スル毎ニ立所ニ賛成ノ意ヲ表シタリ其等各電ハ思フニ已ニ貴覽ニ達シ居ルコトナラン

然ルニ此頃聞ク所ニヨレハ南北ノ當局者ヨリ軍民長官ニ對シ電報ヲ以テ同意ヲ求メタルニ或ハ專ラ事實ノミヲ主眼トシテ法理ヲ以テ依歸トナサス或ハ徒ラ法理ヲ論争シテ事實ノ障礙トナルヲ思ハス斯クシテ双方ノ理論ハ各極端ニ走り調停上手ノ着クヘキナシト是ニ至テ誠ニ恐ル果シテ斯ク如クニ和局成ルナク戰禍復生シ吾國一縷ノ生存ノ機會ハ是ヨリ長ク絶望シ外ナカランコトヲ依ツテ

特ニ希望スル所ハ各自國家ノ和平ト統一トヲ以テ念トナシ各讓歩ノ心ヲ存シ法理ニ依據シテ事實ヲ解決シ双方ヲシテ日ニ接近シ長ク相脊ヒテ馳ルニ至ラサルニアリ若シ法理ヲ外ニシテ和ヲ言ヒ而シテ永久ノ和平ト統一トヲ求メントスルモアラハ是レ猶ホ絲ヲ治メントシテ却テ之ヲ撻キ亂スカ如キモノニシテ到底望ヲ達シ得ヘクモアラス希クハ主張ヲ一ニシ以テ國家危急存亡ノ難ヲ救ハント

黔議會 江印

MT 1614 12718

MT 1614 12717

發送先
參謀次長
海軍々令部次長
關東都督府陸軍參謀長
坂西少將
青島駐軍參謀長
上海駐在武官
台灣總督府海軍參謀長
同外事課長
南京駐在武官

陸軍次官
外務次官
北京公使館附武官
支那駐屯軍司令官
支那駐屯隊司令官
中支那派遣隊司令官
臺灣總督府民政長官
同警視廳總長
福州領事

MT 1614 12719

たう形を以て

電信課長

大臣

次官 **十**

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

(暗)

内田外務大臣

有吉宗彦

弟中三條

朱陸鈞以下北方代表一りハ今早
新南系ヨリ糾首朱君ハ一時
ニ入レル趣向在館儀カ波島ニ話ル所
ニ依レバ朱ハ早速店ト会見シタル
モ早ニ舊友トシテ談話ヲ交
換シタルニ止マリ会議期日ハ一
五日中ニ決定早速開会ヲ見ルベ

1614

MT

12720

7月

ク朱ハ或ハ独逸版ニ留泊ノ
コトナランカトノ事ナリ

北京、南京へ電報に南京へ電
号ノ供部送セリ

MT

1614

12721

外

第1門

授受01799番

大

大正八年二月十八日接

警務署

3課

警務

二月十七日

電報

総長

宛

務

井大佐

上海電務三

唐紹儀等南方代表は昨今ノ時局ニ鑑ミ速ニ和平會議ヲ
 開會セント欲シ屢在南京朱啓鈞等ニ対シ上海ニ来ラシトシ
 候シアル朱啓鈞ハ陸軍問題ノ解決前上海ニ至ルヲ欲セ
 又巡シアルト又會議場ニ至ラキ上海ニ独逸但樂部ノ
 備ホリノ爲尙敷調會議開催ノ便ニ至ラサルベク南代
 方代表者ノ此態度又シイラハ重由ニ更ニ何等カ理由アリト
 疑フモノアリ又唐紹儀前日ノ電報ニ対シ昨日午後四時
 頃ノ返電ハ只一處ニ事實ヲ不認スルトシテ誠意アル否
 ト認メ難ク唐紹儀南方側ノ憂慮ヲ招キタリ如斯クハ
 裏面ノ糾紛次第尙絶入手和會會議ノ前途如何暗
 タルモノアルヲ思ハレタ

陸

軍

MT

1614

12723

MT

1614

12722